

意見者	意見概要	
1	1 小中一貫校の話が急すぎる事、話し合いが全くなかった。知識がとぼしくわからない。	
	町の考え	<p>社会全体が大きく変化してきています。こうした中、次代を担う子ども達が心豊かでたくましく生き抜く力を身に付け、力強く未来を切りひらいていくとともに、地域や社会を支える人づくりを進める教育を振興していくことが求められています。</p> <p>本町においても、町の教育に関する基本的方向及び今後推進すべき施策を検討するため、学識経験者、学校関係者、保護者及び地域住民の代表などによる「王寺町教育振興ビジョン策定懇話会」を平成26年9月に設置しました。幅広い分野から意見又は助言を求めながら、現在の教育を取り巻く社会状況や本町の教育の現状と課題のほか、子どもの教育に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための基本方針など、今後10年間の学校教育や社会教育(体育)を含めた計画として、平成27年12月に「王寺町教育振興ビジョン」を策定いたしました。学校をはじめ、家庭、地域、行政等のすべての主体が連携しながらビジョンを共有し、その達成に向けた取組を推進するため、ビジョンの概要版を発行し、全戸配布いたしました。ビジョンは「夢と希望に向かって輝け 明日を担う王寺っ子～一日生きることは一歩すすむことでありたい～」を基本理念として、「王寺を誇る心を育む」、「確かな学力を育む」、「豊かな人間性を育む」、「たくましく健やかな体を育む」、「地域とのふれあいを推進」の5つの基本方針から構成されています。この基本方針の2つ目「確かな学力を育む」の基本施策「学習環境の整備」の取り組みとして、小中一貫教育(義務教育学校)の推進を掲げています。そして、この取り組みを検討するため、学識経験者や住民代表、計7名の委員による「義務教育学校設置検討懇話会」(座長: 梶田 勲一 奈良学園大学学長(元中央教育審議会副会長)、副座長: 富岡 将人 帝塚山学園常務理事(前奈良県教育委員会教育長))を平成28年5月に設置し、今後の児童生徒数の見通しや学校の適正規模も視野に、学校施設の老朽化の現状も考慮しながら、本町の今後の義務教育のあり方について、様々な意見を交わし、議論を重ねていただきました。</p> <p>その結果、懇話会として、教育の質の向上はもちろんのこと、老朽化している施設を整備することにより、未来を担う子ども達に充実した学びの環境を提供できるものであり、「義務教育学校」を設置すべきであるという結論に達し平成28年12月に提言を頂きました。</p> <p>町議会においても、平成28年3月に施政方針、6月、9月及び12月には一般質問、委員会等で報告をさせていただきました。</p> <p>また、地域や保護者の皆様に説明し、広くご意見をお聴きするために、平成28年11月にタウンミーティングを3日間開催、総合教育会議を経て、12月27日に基本方針(案)を定め、平成29年1月23日までパブリックコメントを実施させていただきました。その間、1月18日～22日には、0歳から15歳の子どもの保護者を対象にスクールミーティングを、小中学校には空調の整った大人数を収容できる場所がないことから、町内3ヶ所の公共施設の大ホールなどを利用し、曜日、時間帯、場所を変えて開催させていただいたところです。</p> <p>今後も、計画の進行とともに、順次、地域や保護者の皆様に説明、意見をお聴きする場を設け、ご理解を得ながら、進めてまいります。</p>
	2 小1から中3 児童生徒数が多く、プール(深さ)、体育館など共用できるのか。	
	町の考え	<p>小学校1年生から中学校3年生までの幅広い年齢、体格の違う児童生徒が共用することから、安全性が求められるのは言うまでもありません。パブリックコメント、スクールミーティング等での意見を受けて、「基本方針」の今後、取り組みを進める上での留意すべき事項として、安全安心かつ快適に学校生活を過ごせるように施設配置を行ってまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室、特別教室等については児童生徒の安全性・動線に配慮し、適切な配置・規模・設備にします。 ・小中学校課程の通常の学習・生活にそれぞれ適したゾーニングとします。 ・運動場、体育館及びプールは、体格差に配慮した施設・設備とします。 例えば、中学校課程の生徒と小学校課程の低学年児童が体育や遊びなど同時に行う場合、運動場においては、メイングラウンドやサブグラウンドを設けたり、プールにおいては、水深を調整するため、プールフロアの設置など安全性に配慮します。 <p>さらに児童生徒の互いの交流スペースの確保や、教職員や保護者の間に協働関係が構築しやすいよう各種配置を工夫します。</p>
	3 授業時間が違う中、チャイムの鳴らし方? 休憩時間と体育時間が上級生と下級生同時になるがどうするのか?	
	町の考え	<p>授業時間は通常小学校45分、中学校50分であることから、ご意見のとおり、学年により授業時間と休憩時間が重なる場合があります。意見1-2に対する町の考えのように学年毎の教室のゾーニングに配慮し、フロアごとのチャイムを鳴らしたり、運動場使用時の安全確保のため、メイングラウンドやサブグラウンドの設置により、対応できると考えています。</p>

○「王寺町義務教育学校設置に向けた基本方針」策定に向けたパブリックコメント 意見概要 と 町の考え

意見者	意見概要
1	<p data-bbox="212 241 922 271">4 小学校に行くまでが遠くなる。王寺北小学校なら近くで便利。</p> <p data-bbox="212 293 1294 322">5 通学路が全く整備されておらず(信号や横断ルート)、事故が心配。スクールバスは出すのか？</p> <div data-bbox="212 338 1538 1048"> <p data-bbox="292 383 1538 472">ご意見のとおり、義務教育学校の設置により、通学距離が長くなる方も、短くなる方もおられます。通学路の安全確保も必要不可欠です。パブリックコメント、スクールミーティング等での意見を受けて、「基本方針」の今後、取り組みを進める上での留意すべき事項として、次のように通学路の安全確保を図ってまいります。</p> <ul data-bbox="292 506 1538 595" style="list-style-type: none"> ・不審者による犯罪や交通事故の防止等のため、通学路の安全点検を実施し、町と警察が連携してスクールゾーンの再設定や要注意箇所の把握・安全施設の整備を行います。加えて町、学校、警察、保護者、地域が連携して、児童生徒の登下校を見守る体制整備に取り組みます。 <p data-bbox="292 622 1538 741">・また、特にご意見が多い本町1丁目の交差点については、国道の横断場所について、舟戸地区からは、役場横(達磨橋北)の歩道橋を利用、あるいは葛下川の遊歩道を利用し、通学、葛下1丁目・イトーピア葛下台地区からは、前田橋を渡り、(達磨寺北西の)張井交差点を横断(張井北自治会の住宅街を経て通学)するなど、本町1丁目交差点を回避する安全なルートを考えています。</p> <p data-bbox="292 768 1538 887">なお、通学距離についても、現在の学校と王寺中学校に設置する義務教育学校までの比較を試算しますと、素案検討の段階ではありますが、通学距離の増減は、舟戸2丁目のうち北幼稚園奥からでは約1.5km長くなり、約1.8kmに、逆に、久度5丁目のうち久度雨水ポンプ場近くからでは、1.4km短くなり、約1kmと試算しています。</p> <p data-bbox="292 913 1538 1010">スクールバスについては、文部科学省では、通学距離の基準として、小学校でおおむね4km以内、中学校ではおおむね6km以内と設定し、また、通学時間の目安として1時間以内を示しています。王寺町はおよそ東西4km、南北3kmという小さな行政面積で、学校から最も遠い場合でも約2.5kmであることから、運行しない予定です。</p> </div>
	<p data-bbox="212 1070 1043 1099">6 一クラスの生徒は増える。教師の数は減るではデメリットしか見えない。</p> <div data-bbox="212 1115 1538 1406"> <p data-bbox="292 1144 1538 1379">文部科学省の学級編制の標準は、小学1年は1クラス35人、小学2～中学3年生は40人で、義務教育学校も同じであり、学級数に応じ、教職員が配置されます。法制化によって小中一貫教育の制度的基盤が整備されたことにより、例えば、小中一貫教育の導入に伴い学校統合を行う場合の教員加配、専科指導等のための教員加配やスクールカウンセラーの配置などの支援があります。また、これまで中学校で行われてきた教科担任制を小学校課程に前倒しすることにより、学級担任の担当授業時数が減る場合も考えられます。その場合に生じる空き時間について、学校の教育活動の一層の向上につながるよう、①年間を通して空(あ)き時間に一定量の授業観察を行う。②習熟に差が付きやすい教科(例えば、国語、数学、英語など)のチームティーチング(複数の教師が協力して授業を行う指導方法)に入る。などのきめ細かな指導ができると考えています。</p> </div>
	<p data-bbox="212 1429 1382 1458">7 下は6歳の子供から上は思春期まっ只中の生徒が一つの校舎で過ごすことはいろんな悪影響がある。</p> <div data-bbox="212 1473 1538 1921"> <p data-bbox="292 1503 1538 1895">異学年交流の悪影響をご心配ですが、効果としては、例えば、以下のようなことが考えられています。</p> <ul data-bbox="292 1536 1538 1895" style="list-style-type: none"> ・家庭や地域における子供の社会性育成機能が弱まっている中で、異学年交流によって社会性(思いやりの心、コミュニケーション能力等)やリーダーシップを育成することができる。 ・異学年で学ぶことが新しい気づきや既習事項の振り返り、学習意欲の向上につながる。 ・児童の中学校生活に対する不安感の軽減により、小学校から中学校への移行がスムーズに行われ、学校段階間のギャップの解消につながる。 ・単独の小学校及び中学校では確保できない十分な集団規模を確保して教育活動を行うことができる。 ・人間関係が固定化してしまうことによる悪影響を抑え、多様な人間関係を構築できる。 ・異校種の教員が必然的に連携し理解し合わなければならない場面が増え、協力関係が構築される。 <p data-bbox="292 1771 1538 1805">また、異学年交流を実際に行った場合の成果として、例えば、以下のようなことが挙げられています。</p> <ol data-bbox="292 1805 1538 1895" style="list-style-type: none"> ① 友達や下級生に優しくできる児童生徒が増えた。 ② 相手の気持ちをよく考えて付き合おうとする児童生徒が増えた。 ③ 中学校の生徒の責任感や自己肯定感が高まり、学校全体が落ち着いた。 </div>

○「王寺町義務教育学校設置に向けた基本方針」策定に向けたパブリックコメント 意見概要 と 町の考え

意見者	意見概要	
1	<p>8 近くに学校があることは、避難所、また、インフォーマルな資源でもある。この予算を削るなら無駄な公共事業費や町職員の人件費をカットしてやりくりを。</p> <p>9 学校は地域のコミュニティの場でもある。子どもが巻き込まれる事件や認知症の方の徘徊での事故などのリスクも下がる。</p>	<p>避難所機能については、義務教育学校の設置により、校舎を含め、収容人員は満たされますが、パブリックコメント、スクールミーティング等での意見を受けて、今後、取り組みを進める上での留意すべき事項として、廃校施設等の利用については、例えば、コミュニティの場、社会体育施設や社会福祉施設への活用も含め、今後の行政需要や地域の実情を考慮して、あり方を検討してまいります。</p> <p>ちなみに、(北)義務教育学校の整備費用を試算しますと、「王寺町公共施設等総合管理計画」における更新単価の建替え㎡単価30万円に文科省の定める必要面積16,000㎡で計算し建築費は約48億円、このほか、用地取得費や造成費用もかかります。</p> <p>このため、予算の削減ではなく、逆に「教育のまち王寺」実現のために教育費を拡充させるものであります。社会が大きく変化する中、次代を担う子どもたちが心豊かでたくましく生き抜く力を身に付け、力強く未来を切りひらいていくとともに、地域や社会を支える人づくりを進めることは町の最も重要な施策であると考えており、必要な投資を行うこととしております。</p>
10		<p>タウンミーティングのアンケートは分離型から一体型になる南地区の方が多く、同じ土俵で物事(町全体の意見)を決めるのはおかしい。</p>
	町の考え	<p>ご意見のタウンミーティングのアンケートの集計結果は、次のとおりですが、この結果をもとに義務教育学校の設置を決めるものではありません。義務教育学校設置検討懇話会の提言をもとに、タウンミーティングだけでなく、議会や総合教育会議、パブリックコメントやスクールミーティングを通して、いただいたご意見を参考に方針を定め、計画を進めるものです。今後も、計画の進捗に合わせ、順次、説明、ご意見をお聴きする場を設けながら、地域や保護者の皆様の理解を得ながら進めてまいりたいと考えております。</p> <p>なお、出席者の約70%が北校区の方でありますので、結果として北校区の方のアンケート結果の内容がより反映されたこととなります。</p> <p>タウンミーティングアンケート集計結果</p> <p>●今回のタウンミーティングはいかがでしたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変良かった 12.6% ・良かった 69.4% 以上82% ・あまり良くなかった6.3% ・良くなかった 3.6% ・分からないも含め無回答 8.1% <p>●「義務教育学校(小中一貫教育)」の制度について、理解は深まりましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変深まった 13.5% ・深まった 67.6% 以上81.1% ・あまり深まらなかった 9.0% ・深まらなかった 6.3% ・分からないも含め無回答3.6% <p>●「義務教育学校(小中一貫教育)」の設置に賛成ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大いに賛成 27.0% ・どちらかといえば賛成 44.1% 以上71.1% ・どちらかといえば反対 12.6% ・反対 5.4% ・分からないも含め無回答10.8%

○「王寺町義務教育学校設置に向けた基本方針」策定に向けたパブリックコメント 意見概要 と 町の考え

意見者	意見概要	
1	11	<p>学校が古いからといって統合されるのはイージー、小中一貫が制度化され、ハードソフトとも不十分な段階ですぐ移行するのは納得できない。</p> <p>ご意見の王寺町の小・中学校の施設の状況は、最も古い施設である王寺小学校の1号館は、昭和34年に建築され、築後57年経過、王寺中学校の北館も、昭和39年に建築され、築後52年が経過しています。最も新しい王寺南小学校についても、平成元年に建築され、築後27年が経過しています。施設の約7割近くが、建築後40年を経過し、時代に応じた空調設備や綺麗なトイレ、ICT環境の整備を行うにも、電気・給排水設備の大規模な改修が必要となり、耐用年数から見ても十分な投資効果が得られないことから、新築等による校舎整備が喫緊の課題となっています。</p> <p>また、王寺小学校の場合は、埋蔵文化財包蔵地(飛鳥時代の片岡王寺跡)であり、王寺町文化財保護審議会から「校舎の新築により、片岡王寺跡の遺構が破壊されるおそれがあり、発掘調査するには約10年の歳月を要し、学校施設は別の場所に建設した上、発掘調査を実施して、遺跡公園などに整備できないかも検討することも必要であると考えられる。」との答申があり、現地改築が困難となっています。そこで、今後の児童生徒数の見通しや学校の適正規模も視野に、施設の老朽化だけでなく、次に述べる小中一貫教育の成果を踏まえ、町内にいる3小学校と2中学校の5校を2校の義務教育学校に再編・整備する方向で議論を重ね、基本方針の策定に至ったものです。</p> <p>また、小中一貫教育については、これまで全国の自治体や学校現場での取組が10数年以上にわたって蓄積され、顕著な成果が明らかになってきました。一方、現行制度の範囲内で成果を蓄積してきた市町村からは、小学校と中学校が別々の学校制度として設計されていることによる様々な限界を越えて、取組を一層高度化させる等の観点から、正式な学校制度として法制化すべきとの要望が寄せられていました。こうしたことを踏まえ、国においては、教育再生実行会議の第5次提言や中央教育審議会答申を経て、平成27年6月の通常国会で、9年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の種類である「義務教育学校」の設置を可能とする改正学校教育法が成立し、平成28年4月1日に施行されたものです。</p>
2		<p>メリット、デメリットが対象となる我々小学生、幼稚園児の保護者にしっかりと伝わっていない。タウンミーティングだけでなく以下の方法での説明を望む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象児童、園児の保護者にプリントや冊子などの配布。 ●参観日などに合わせ、学校での説明会。(一度でなく複数回) <p>また、賛否の意見収集を対象児童、園児にプリントを配布し、それを回収する直接的な方法で多くの意見が集まるまで時間をかける。</p> <p>町の考え</p> <p>意見1-1の町の考えでお答えさせていただいたように、1月のスクールミーティングは、小中学校には空調の整った大人数を収容できる場所がないことから、町内3ヶ所の公共施設を利用し、曜日、時間帯、場所を変えて開催させていただいたところです。今後も、計画の進行とともに、順次、地域や保護者の皆様に説明、意見をお聴きする場を設けさせていただきます。また、学校・園で保護者のお集まりになる機会に説明の場を設け、ご理解を得ながら、進めてまいりたいと考えております。</p>
3		<p>一貫校のアンケート結果では王寺町は賛成意見の方が多という認識のようだが王寺中学校区と王寺南中学校区一貫校の内容は全く違う。通学面では王寺南中学校区は区画整理で近くなるなどメリットが大きい、これほど内容に差があるのにひとまとめのアンケートで結果を出すのはおかしい。アンケート結果を町全体の意見とするならどちらも同じ条件(分離型)で進めるべきではないか？</p> <p>町の考え</p> <p>意見1-10の町の考えでお答えさせていただいたように、タウンミーティングのアンケートの結果をもとに義務教育学校の設置を決めるものではありません。北と南で義務教育学校設置の条件が全く違うとのことですが、ご意見の通学距離については、どちらの地区においても、近くなる方も遠くなる方もおられます。義務教育学校(南)について、義務教育学校(北)の開学当初は、施設分離型として、現行の王寺南小学校及び王寺南中学校施設を使用してスタートするのは、それぞれの場所に施設一体型が可能かどうかの土地利用調査などを平成29年度に行い、建設場所を特定し、地域や保護者の皆様に理解を得ることから、着工時期が北に比べ遅くなるためです。しかしながら、南地区についても、良好な施設環境を確保するため、できるだけ早い時期に施設一体型の整備を行いたいと考えております。</p>
4	1	<p>舟戸から王寺中学校への通学路改善検討はしているのか？交通量も多く大変危険だと思う。</p> <p>町の考え</p> <p>意見1-4、5の町の考えでお答えさせていただいたように、パブリックコメント、スクールミーティング等での意見を受けて、「基本方針」の今後、取り組みを進める上での留意すべき事項として、通学路の安全確保を図ってまいります。(意見1-4、5 町の考え参照)</p>

○「王寺町義務教育学校設置に向けた基本方針」策定に向けたパブリックコメント 意見概要 と 町の考え

意見者	意見概要	
4	2	<p>小学校が近い魅力で住宅を購入したのに何の説明もなく決定だけを聞かされた。賛成者が多いと聞いたが、何も聞いたことがない。</p>
	町の考え	<p>結果として、遠くなる方があることは承知しています。 他方、社会全体が大きく変化してきている中、次代を担う子ども達が心豊かでたくましく生き抜く力を身に付け、力強く未来を切りひらいていくため、町の小中学校の現状や、今後の児童生徒数の見通し、学校の適正規模も視野に、施設の老朽化だけでなく、既に10数年前から全国で実施されてきた小中一貫教育の成果を踏まえ、本町に相応しい義務教育のあり方について議論を重ねた結果、町内にある3小学校と2中学校の5校を2校の義務教育学校に再編・整備する基本方針の策定に至ったものです。今後も、計画の進行とともに、順次、地域や保護者の皆様に説明、意見をお聴きする場を設け、ご理解を得ながら、進めてまいります。(意見1-1や1-11の町の考え 参照)</p>
	3	<p>生徒が1000人規模となる学校の校舎・校庭をどれくらい拡大するのか分からないが、特別教科授業は十分にできるのか？</p>
	4	<p>今までのような運動会行事ができるのか？クラブ活動が充実するのか？</p>
	5	<p>9年生が運動してるなかで1年生が巻き込まれ事故にならない配慮があるのか？保障があるのか？</p>
	町の考え	<p>ご意見のように、小学校1年生から中学校3年生までの幅広い年齢、体格の違う児童生徒が共用することから、安全性が求められるのは言うまでもありません。パブリックコメント、スクールミーティング等での意見を受けて、「基本方針」の今後、取り組みを進める上での留意すべき事項として、安全安心かつ快適に学校生活を過ごせるように施設配置を行ってまいります。(意見1-2 町の考え参照)</p> <p>小中一貫教育に取り組む学校では、運動会や文化祭といった学校行事を小中合同で行う取組が多く見られます。例えば、文化祭で小・中学校の全児童生徒による合同合唱を行っている例などがあり、合同練習などを経て、中学生が安定した歌声でリードする役目を果たし、小学生が安心して元気な歌声を出すことができるようになるなど、小・中学校双方の児童・生徒にとって、大きな成長の機会となり得ます。部活動についても、小学校高学年から参加することで、部員数や、従事できる教職員の確保など、部活動の活性化が図れます。運動会の合同開催は、運動場で開催できる規模を超えてしまったり、競技への出場機会が極端に減ってしまったりといったことも考えられることから、小学校課程、中学校課程など、それぞれ開催し、そこに部分参加する方法もありますが、開催方法については、9年一貫の教育目標や系統性を整理したカリキュラムの作成なども含め、平成29年度から各小中学校、教育委員会事務局等によるプロジェクトチームを結成し、検討を進めてまいります。</p>
	6	<p>教育の質が高くなるとあるが、1クラスの生徒数が増えるのに、そんなことが可能なのか？</p>
	町の考え	<p>意見1-6の町の考えでお答えさせていただいたように、習熟に差が付きやすい科目のティームティーチング(複数の教師が協力して授業を行う指導方法)などのきめ細かな指導ができると考えています。</p> <p>また、小中一貫教育では、義務教育9年間を見通した学校教育の目標(中学校卒業時点での目指す子ども像)を具体的に設定した上で、目標達成のための手段として、各教科等の系統性を重視した教育課程を編成し、各学年の年間指導計画として実施していきます。その際には、それぞれ小学校段階を超えたつながり(接続の円滑化)だけでなく、小学校段階内や中学校段階内での異なる学年のつながりも含め、9年間の系統性・連続性を重視して、発達の段階に応じた縦のつながりと各教科等の横のつながりを意識しながら教育課程全体を編成していきます。これらにより、既習事項の定着を確認・強化しながら、児童生徒に学習内容の定着を促す指導の工夫や、発展的な理解を促す指導の工夫を9年間で一貫させていくことが考えられます。</p>
	7	<p>2013年に文科省が老朽化した学校施設の整備の補助を導入しているが、新学校を設立させる補助と比較させた金額の公表を。</p>
	町の考え	<p>老朽化に対する補助単価は新築に比べ、築年数40年以上の施設を対象にした長寿命化改良事業は60%、築年数20年以上の施設を対象にした大規模改造事業は53%、国庫補助事業のうち補助金や地方交付税による措置を除く、地方負担額は、新築20%、長寿命化改良事業26.7%、大規模改造事業66.7%となっています。なお、補助単価は、約18万円/㎡で実際の工事単価と大きく乖離しているのが実情です。</p>
	8	<p>廃校になった小学校はどうなるのか？避難所として残すのか？</p>
	町の考え	<p>意見1-8、9 町の考えの前段を参照してください。</p>

○「王寺町義務教育学校設置に向けた基本方針」策定に向けたパブリックコメント 意見概要 と 町の考え

意見者	意見概要	
4	9	<p>耐震工事を終えたばかりなのに税金の無駄にならないのか？</p> <p>町の考え 学校施設は児童生徒の学習・生活の場だけでなく、災害時には地域住民の避難所にもなります。その安全性の確保は不可欠であります。子ども達の命に直接関わるものであり、早急に実施しなければならない極めて重要な対策であることから、国においても優先事業に位置づけられ、本町においても、躯体の耐震化、窓ガラスなど非構造部材の耐震対策を実施したものであります。</p>
5	1	<p>学校制度を変えてもさほどの成果はないのではないか。日本の先生方の教え方の不備に由来している部分が多いと思う。新たに学校を作るよりも、先生方の教え方の研究などの向上を目指すあり方がもっと模索されてもいいのではないか。</p> <p>町の考え 意見1-11の町の考えの後段でお答えさせていただいたように、小中一貫教育については、これまで全国の自治体や学校現場での取組が10数年以上にわたって蓄積され、現行制度の範囲内で成果を蓄積してきた市町村からは、小学校と中学校が別々の学校制度として設計されていることによる様々な限界があり、これを超えて、取組を一層高度化させたいとの要望が寄せられていました。このことから、国において、9年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の種類である「義務教育学校」の設置を可能とする改正学校教育法が平成28年4月1日に施行されたものです。</p> <p>文部科学省が平成26年5月に行った実態調査においても、小・中・中の教員間で協力して指導に当たる意識が向上した。小・中で共通で実践する取組が増えた。小・中で互いの良さを取り入れる意識が高まった。教員の指導方法の改善意欲が高まった。教員の教科指導力の向上につながった。小学校教職員の間で基礎学力保障の必要性に対する意識が高まった。小・中学校の指導内容の系統性について教職員の理解が深まった。など教員の指導にあたっての成果が多く挙げられています。</p> <p>児童生徒の9年間の発達を見据えて教育活動に取り組んでいくためには、積極的に他校種における指導技術の向上に努めるとともに、小・中相互の良さを学び合っていく必要があります。ご意見のように重要なのは、校内研究をはじめとした教職員研修です。指導・助言、情報提供といった外部からの刺激と、校内研究、相互の授業参観などによる教職員間の高め合いの双方が相まって、より良い取組が生まれていきます。義務教育学校への制度移行前も、開校後も、研修機会の拡大と充実に努めてまいります。</p> <p>2 王寺小学校は明治7年創立、伝統校。王寺町のひとつの象徴、何万の卒業生を送り出したこの町の中核。卒業生の思い・思い出が残る場所。北小学校も創立40年、こちらも伝統校。両小学校とも「耐震工事」がなされている。廃校として何らかの利用はできるはず。維持費用はかかるが、この町を象徴し続けた場所として大切に思われるべき場所、保存の検討を。</p> <p>町の考え ご意見のとおり、卒業生にとっては、寂しい想いを抱かれる方もおられることと思いますが未来を担う子ども達の教育環境の充実にご理解をいただくと考えております。当然、学校が無くなっても、伝統や想いは将来に継承していく必要があります。新たな義務教育学校に旧校歌を飾ることや、廃校となる場所にモニュメントを設置することで継承するののも一つの方法と考えております。</p> <p>廃校となる施設の利用については、ご意見1-8、9 町の考えでお答えさせていただいたように、例えば、コミュニティの場、社会体育施設や社会福祉施設への活用も含め、今後の行政需要や地域の実情を考慮して、あり方を検討してまいります。</p> <p>3 開校時期があまりにも早い印象、検討不足のままの印象である。 町民意見の募集締め切りが早すぎる。あと一度は意見募集の機会を。</p> <p>町の考え 意見1-1の町の考えでお答えさせていただいたように、平成27年12月に策定しました「王寺町教育振興ビジョン」の策定過程、義務教育学校設置検討懇話会で議論を重ね、提言をいただき、基本方針案を策定し、本パブリックコメントやスクールミーティングでご意見をお聴きしたものです。今後も、計画の進捗とともに順次、地域や保護者の皆様に説明、ご意見をお聴きする場を設け、ご理解を得ながら、進めてまいります。</p>

意見者	意見概要
5	<p>4 カリキュラム確定や何よりも「教え方」の研究が必要。さらなる町民の意見・見解の公募がなにより必要である。</p> <p>意見5-1、3の町の考えを参照してください。</p> <p>カリキュラムについては、パブリックコメント、スクールミーティング等での意見を受けて、「基本方針」の今後、取り組みを進める上での留意すべき事項として、9年一貫の教育目標や系統性を整理したカリキュラムの編成、軸となる独自教科(例えば、ふるさと科、英語科、キャリア教育に関する取組、情報活用能力の育成に関する取組)の設定、子ども達の発達の早期化への対応や中学校段階(課程)への移行に際して子どもが体験する段差の緩和を図る観点から、4-3-2など、学年段階の区切り(従来であれば中学校段階の指導の特徴とされてきた取組について、小学校の指導の良さを生かしながら、段階的に小学校課程高学年に導入したり、これまでの小学校と中学校の教員が協力した指導を行ったりすることにより、学校段階(課程)の円滑な移行を図っていくもの)の設定や、教職員の意識醸成などが必要なことから、平成29年度から各小中学校、教育委員会事務局によるプロジェクトチームを結成し、円滑なスタートが図れるよう、先進校の取り組みなど情報収集を行い、調査・研究を行ってまいります。</p>
5	<p>5 中一ギャップがどの程度問題であるのか、町の先生方の力量ではどうにもならないものなのか？制度を変えねばならないほどなのか？</p> <p>町 の 考 え</p> <p>現在、いじめの認知件数、不登校児童生徒数ともに、中学1年生になったときに大幅に増えるなど、児童が小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活に不適應を起こす、「中一ギャップ」の事象は、王寺町で次のように学年間の発生事象を見比べても際立った増加は見られませんが、潜在的事象の存在や、今後においてこのような事象の現れる可能性は否定できないことから、その抑止力につながることを期待されています。</p> <p>○平成27年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省・王寺町分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ認知件数(小学校3年1名、4年2名、5年1名、6年2名、中学校2年4名、3年1名) ・不登校児童生徒数(小学校2年1名、3年2名、4年2名、中学校1年1名、2年3名、3年2名) <p>また、都道府県や民間研究所の調査では、学習指導面においても「授業の理解度」「学校の楽しさ」「教科や活動の時間の好き嫌い」について、中学生になると肯定的に回答する生徒の割合が大きく下がる傾向にあることや、「上手な勉強の仕方が分からない」「やる気がおきない」「勉強が計画通り進まない」と回答する児童生徒数が大幅に増え、「毎日コツコツ勉強する」「勉強に自信がある」と回答する児童生徒が大きく減少する傾向が明らかになっています。小中学校では、家庭学習の違い(小学校:宿題の教科間の調整がなされやすい/中学校:宿題の教科間での調整がなされないことが多い、部活動その他で時間に追われる、進路選択を念頭に置いたストレスが高まる)や、部活動の有無(中学校から部活動が始まり、放課後や休日の活動を行う機会も増える、先輩・後輩の上下関係が人間関係に占める割合が高まる場合がある)の違いなどがあり、このような状況を踏まえ、多様な教職員が指導に当たることによる興味・関心や個性伸長への対応、教科指導における専門性の強化といった従来であれば中学校段階の特質とされてきたものが、一定程度小学校段階に導入されるようになっていきます。また、児童生徒の様々な成長の段差に適切に対応する等の観点から、6-3制の大きな枠組みを維持しつつも、4-3-2や5-4などのように、学校段階を越えた学年段階の区切りを柔軟に設けた上で、区切りごとに重点を定めて指導体制を整え、中学校段階への接続を円滑化させたり、教育活動を充実させたりすることの有効性が指摘され、こうした取組を容易にする枠組みとして、次の意見5-6の町の考えも含め、義務教育学校の設置を進めるものです。</p>

意見者	意見概要
5	<p>6 現在の王寺町の例えば小中学生のどこが問題なのか？テストの得点分布はどうか？つまづきやすい単元はどこか？・・・どのような対策をとったか？にもかかわらずなぜ解決できていないのか？王寺の学校の伝統を壊してまで「新制度」が必要なのか？</p>
町の考え	<p>王寺町の児童生徒の学力・学習状況における教育課題を学校・家庭・地域とともに把握し、より一層の連携のもとにその課題克服に向けて取り組むため、「平成28年度 全国学力・学習状況調査から見える王寺町の児童生徒」と題して、調査の分析結果を町ホームページにて公表しています。</p> <p>小学校・中学校の国語A・B、算数(数学)A・B、共に奈良県及び全国の平均正答率を上回っていますが、小学校・中学校とも全国1位の県平均に比べ低くなっています。また、王寺町も含め全国的に各教科とも「A:知識」に比べ「B:活用」が低くなっていることから、情報を整理して関係づけて答えることができるような活用力の向上が求められています。小学校では、例えば<国語A>で3学年で学習するローマ字に関する出題があり、「平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと、ローマ字を正しく読むこと」の正答率が全国・奈良県よりは高かったものの、正答率が50%程度で十分とはいえ、高学年でローマ字の復習をすることにより、定着を図る必要があります。<算数B>では示された式や説明文、グラフや数値を読みとり、解釈し、関連づけて説明を求める記述式問題の正答率は、全国・奈良県と同様に低くなっており、課題があります。「単位数当たりの大きさを求めるために、他に必要な情報を判断し、特定することができるか」を問う設問の正答率は、全国・奈良県よりやや低くなっています。</p> <p>また、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査では、【朝食を毎日食べていますか】の質問に、小学校では、97%の児童がほぼ毎日朝食を食べていて、その割合は徐々に増えてきています。一方、中学校では、88%の生徒がほぼ毎日朝食を食べているものの、その割合は少しずつ減っていることが懸念されます。【新聞を読んでいますか】の質問では、「ほぼ毎日読んでいる」と回答した割合は、児童約12%、生徒約5%に対して、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した割合は、児童50%以上、生徒60%ほどもあり、なお課題があります。児童・生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査と国語A・B、算数(数学)A・Bの各教科正答率との間に相関関係が見られる項目がありますので、内容の公表により、今後、子ども達の家庭生活を見直すきっかけにさせていただきたいと考えております。教育委員会としても、子ども達の学習への関心・意欲・態度、学習習慣、生活習慣、自尊感情、規範意識等をより醸成するために、学校教育分野だけでなく生涯教育分野も含め様々な施策を実施していますが、子ども達は小学校1年生から中学校3年生までの義務教育9年間の中で、日々の学習を積み上げて成長していきます。</p> <p>しかし、現行の制度では、例えば、小学校低学年の教員は、中学校での学習や子ども達が中学校を卒業するときの姿をイメージしながら日々の教育活動を行っているのか、中学校の教員は、小学校のどの学年で何を学んで、何につまずいて今の子ども達の姿があるのかを知った上で指導に当たっているのかといった問いに向き合い、目の前の子ども達の課題に応じた対応を模索することが法改正の要請と相まって、重要性を増してきました。このような状況がある中、小学校と中学校が共に義務教育の一環を形成する学校として学習指導や生徒指導において互いに協力し、責任を共有して目的を達成するという観点から、小中双方の教職員が義務教育9年間の全体像を把握し、系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組むため、地域の実情に応じた小中一貫教育の実践が求められているところです。</p>
	<p>7 タウンミーティング、スクールミーティングが6回開催された。顔を突き合わせての討議が必要。これまでのミーティングの問題点はやはり質問時間が短かく議論が深まらない。参加日時も都合で限られている。さらなるミーティング、しかも3時間規模のもの、2時間半は討議できること、こうしたことをあと10回は行われる必要がある。人生の始まりの時期に9年間も同じ場所で過ごすことに問題はないのか？なぜこれほどまでに新制度が急がれているのか分からない。</p>
町の考え	<p>意見1-1、5-3の町の考えでお答えさせていただいたように、今後も、計画の進行とともに順次、地域や保護者の皆様に説明、ご意見をお聴きする場を設け、ご理解を得ながら、進めてまいります。</p> <p>また、小学1年生から中学3年生が同じ場所で9年間過ごすことについては、意見1-7町の考えでお答えさせていただいたように異学年交流の成果も大きいと考えております。また、ご意見1-2町の考えでお答えさせていただいたように、体格の違う児童生徒が安全安心かつ快適に学校生活を過ごせるように施設配置を行ってまいります。</p> <p>義務教育学校の設置を早期に実現したいのは、意見1-11の町の考えでお答えさせていただいたように、学校施設の老朽化が進み、施設整備が喫緊の課題となっているためです。</p>
	<p>8 「教員のモチベーションがあがった」ことは義務教育学校のメリットではない。制度が変わらないとやる気がなかった先生は、いずれ情性が来る。</p>
町の考え	<p>意見5-1の町の考えの後段でお答えさせていただいたように、小中学校互いの良さを取り入れ、教員の指導力の向上につながると考えており、開校後も継続して研修機会の拡大と充実を図ってまいります。</p>

○「王寺町義務教育学校設置に向けた基本方針」策定に向けたパブリックコメント 意見概要 と 町の考え

意見者	意見概要	
6	<p>今般検討されている義務教育学校設置については、次の2点について、適切に検討・対応されることを大前提に賛成する。</p> <p>1 安全な通学路の確保</p> <p>現在住んでいる地域は、西和警察署の近くで王寺中学校に設置される義務教育学校に通うとなれば距離が遠くなる。</p> <p>西和警察署から本町の交差点へ続く道路を通る必要がある。交通量が多く通学には危険が多い。小学生(特に低学年)にとっては危険が多い場所である。</p> <p>さらに歩道が途中までであるが簡易的なもので十分に事故の危険を払拭できない。ボランティアの善意に過剰に頼るべきではない。</p> <p>事故が発生することを防ぐことができるよう現状よりも広い、柵のついた遊歩道の設置を検討頂きたい。</p> <p>子供が安全に、学校まで通学できることが、教育における大前提であり、国の規定の通学距離内であるから問題ないというのは机上の空論である。</p> <p>王寺の駅前は大変多いことから、安全に通学できるよう、やり過ぎと思われるほどの対応をとられることを切に望む。</p>	
	町の考え	意見1-4,5の町の考えでお答えさせていただいたように通学距離が長くなる方も、短くなる方もおられます。パブリックコメント、スクールミーティング等での意見を受けて、「基本方針」の今後、取り組みを進める上での留意すべき事項として、通学路の安全確保を図ってまいります。(意見1-4、5 町の考え参照)
		<p>2 王寺北小の跡地の利用</p> <p>王寺北小跡地のその後の用途をどのようにお考えなのか、これも方針として事前に知らせていただきたい。</p> <p>近くの小学校が廃校になるだけでも、現在の住居・土地の価値が大きく下がる。跡地に訳の分からない施設等が建設されると更に価値を下げる。</p> <p>小学校が近くにあることに、「子育て環境」としての魅力を感じてこの地域に移住してきた者に、これ以上ショックを受けることのないよう十分ご配慮を。</p>
	町の考え	意見1-8、9 町の考えの前段を参照してください。また、跡地利用の方針案がお示しできる時点で、説明、地域の皆様のご意見をお聴きする機会を設けたいと考えております。
7	<p>1 基本的な考え方</p> <p>開示されている情報が少ないため、十分な意見を述べられない。賛成・反対の意見も現時点では示せない。社会情勢の変化や校舎等の老朽化の問題を踏まえると、学校教育の場に何らかの変革が必要なことは理解できる。義務教育学校という方向性が出てきたように受け止めているが、義務教育学校も一つの選択肢としながらも、議論と検討を尽くしていただきたい。そして王寺町子ども達にとって最善の学校教育のあり方を示していただきたい。</p>	
	町の考え	義務教育学校設置については、意見1-1の町の考えのとおり、基本方針策定に至るまで検討を重ねてまいりました。今後も、本方針に基づき、調査、計画を進める段階ごとに、地域や保護者の皆様に対して、十分な説明や意見交換を通して、理解を得ながら、進めてまいります。また、魅力あるカリキュラム、児童生徒の共用・連携に配慮した施設づくりなど、研究・協議を重ね、内容のあるものにしてプランをお示ししたいと考えております。
		<p>2 義務教育学校について</p> <p>小学校1年生から中学校3年生までが、それぞれの年齢特性に応じた教育を受けることになるので、事故につながったり、窮屈な思いをしたりと、描いていたビジョンとは逆の結果につながる危険性も含んでいるのではないかと。(例えばグラウンドやプールは小学生と中学生用の2ヶ所設ける)</p> <p>北校区の場合、王寺中学校の敷地を拡張するだけで1000人を収容し、なおかつ年齢層に応じた多様な施設の設置が現実的に可能なのか。</p> <p>描いている教育ビジョンの実現につながりませんので、具体的な計画検討段階においては細やかな議論を望む。</p>
	町の考え	意見1-2 町の考えを参照してください。今後も、計画の進行とともに、順次、地域や保護者の皆様にご説明、意見をお聴きする場を設け、ご理解を得ながら、進めてまいります。

意見者	意見概要
7	<p>3 通学路について</p> <p>学校は子ども達にとって地域のセンターでもある。ボランティアさんがいない時でも安全に学校に行けるよう、ハード面において通学路の整備を。</p> <p>見守りのボランティアさんがいてくださることは非常に有り難がたいが上述のような箇所は出来る限り改修を望む。</p> <p>子ども達の生命に関わることであるので、通学路の問題は重点事項として検討を要望する。</p>
町の考え	意見1-4,5 町の考えの前段・中段を参照してください。
	<p>4 教育方針について</p> <p>学力テストの成績、進学対策ばかりに重点を置いて低学年時から勉強漬けにせず、子どもたちの良さや個性を伸ばせるような教育の展開を。</p> <p>地域の自然や歴史に親しんだり、人とのかかわりを学んだり、さまざまな経験を積めるような学校にしていきたい。</p> <p>障害のある子どもへの特別支援教育が埋没してしまうのではないかと懸念している。</p>
町の考え	<p>意見4-6 町の考え方のおり、義務教育9年間を見通した学校教育の目標(中学校卒業時点での目指す子ども像)を具体的に設定した上で、9年間の系統性・連続性を重視して、教育課程全体を編成し、既習事項の定着を確認しながら、より多くの児童生徒に学習内容の定着を促していきます。教育課程の特例の独自教科としては、「王寺町教育振興ビジョン」の基本方針「王寺を誇る心を育む」にあるように、郷土に対する誇りと愛着を、子どもの自尊感情やグローバル化する社会において国際人として活躍するための基盤とするために、王寺町の歴史や文化、自然、環境を生かした教育を進め、ふるさと王寺への誇りを育めるよう、小学校から中学校3年生までの「ふるさと科」の設置、また、「英語科」を設定することで、既に幼稚園から実施の英語教育の系統性を確保するとともに内容を一層充実させることができると考えています。</p> <p>特別支援教育は障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点から継続的な指導・支援が必要ですが、小中一貫教育は9年間を通じた一貫した指導・支援に取り組むものであること、また、小中学校の教員間の連携が取りやすく、児童の障害の状態や特性等に関する情報や小学校段階での指導・支援の内容についての情報が引き継がれやすいことから、継続性のある指導・支援を行え、きめ細かな指導が可能であると考えています。</p>
	<p>5 その他</p> <p>全国規模だけで王寺町の教育現場で何が課題になっているのか分わからない。1クラスの人数が増えること、新たな取り組みであることなどから先生方の負担増が懸念される。先生方の負担の増加は、ひいては子どもたちに悪影響を与えることにつながるので配慮を。</p>
町の考え	<p>平成27年12月に策定しました「王寺町教育振興ビジョン」における課題のまとめ(3)の中で、「子どもの発達と成長は連続性・一貫性を持って進められるものです。子どもが幼児期で経験したことを土台として、切れ目なく就学後につないでいくことで、子どもの健やかな成長や生きる力を育成していくことが大切です。そのため、乳幼児期から中学校までの教育ビジョンを明確にしながら、幼小中の連携を強化し、子どもが教育環境の変化による生活・学習環境、新たな人間関係において戸惑うことなく、円滑に接続できるように支援することが必要です。」としています。</p> <p>先生方の負担軽減については、電子黒板等のICT機器を普通教室に常設し、デジタル教科書等を活用することで教員による教材等の提示や、児童生徒の発表に活用することにより、理解度をチェックするなど学力向上につながりやすい授業が展開できます。さらに、ICT機器を使うことで、教材を模造紙に書き直す手間が削減されるなど教材作成においても、教員の負担軽減等が図れます。</p>
	<p>(以下、義務教育学校の計画が進められることになったとして)</p> <p>新たな校舎は、奈良県産の木材を活用した建物、県産材活用の取組などとタイアップして取組を進めていただければと思う。子ども達が木の暖かみに親しみながら学校生活を送るとともに、場合によっては地域のセンターとしても活用できるような、王寺町の自慢になるような学校建設になればよいと思う。</p>
町の考え	<p>学校施設における木材利用は、子ども達のストレスを緩和させ、授業での集中力が増す効果があると報告されています。本町においても、柔らかく温かみのある感触や優れた調湿効果により、豊かで快適な学習環境を形成、森林の保全、地域の産業や地球環境問題について学習する教材としても活用できることから、奈良県産材による木質化、木造建築について、コスト面も考慮しながら検討します。</p>

意見者	意見概要	
8	<ul style="list-style-type: none"> 統廃合することで経費の削減にもつながるので、義務教育学校という形で統廃合が考えられているように感じた。 	
町の考え	<p>児童生徒数のピーク時を想定し、文部科学省の基準に応じ、新たな学校校舎・体育館などを建築するもので、今の時代にあった教室やトイレ環境、空調設備やICT設備等、学習環境を良くするため、多額の投資を行うものです。このことから経費削減ではなく、未来を担う子ども達へのより良い学習環境の提供を図る教育費の拡充です。</p>	
1 通学路	<ul style="list-style-type: none"> 通学距離や通学時間の問題や交通量の多い道路をわたらなければならないという問題がある。 <p>やわらぎの鐘の交差点では、信号があるといっても歩道に車が突っ込んで事故を起こしていた現場を数年前に見た。青信号で横断歩道を渡っていてもバイクとの接触事故が起こったり、その他車同士の事故など、事故が多い場所という印象がある。何らかの対策をたててもらわなければ心配。葛下川の遊歩道を通り、学校の裏側から通学するのは距離が長く、通学には不向きである。</p>	
町の考え	<p>意見1-4,5の町の考えでお答えさせていただいたように通学距離が長くなる方も、短くなる方もおられます。パブリックコメント、スクールミーティング等での意見を受けて、「基本方針」の今後、取り組みを進める上での留意すべき事項として、通学路の安全確保を図ってまいります。(意見1-4、5 町の考え参照)</p> <p>なお、通学距離が長くなることについて、例えば王寺北小学校から王寺中学校までの距離はおおよそ、葛下川遊歩道を通る場合1.6km、本町1丁目交差点を通る場合1.2km、0.4kmの違いです。</p>	
2 施設設備・規模など	<ul style="list-style-type: none"> 施設の設備的にはクーラーの設置や、きれいな校舎で学校生活を送らせてあげられるということだけは、メリットと感じた。先日のスクールミーティングでプールの深さの問題や、クラブ活動と遊び場所としての問題から、プールと運動場を2つずつ作るという話がでたが…。クラス数が多くなることで運動場や体育館、理科室、音楽室などの特別教室が不足する。1つの大きな校舎を建てるにしても、2つの校舎に分けるにしても、広い土地が必要になる。 	
町の考え	<p>意見1-2 町の考えを参照してください。</p>	
3 教育の質など	<ul style="list-style-type: none"> スクールミーティングでは経費削減のためではなく、学力向上・教育の質の向上のために義務教育学校を作ることであった。教育の質の向上、小中学校の教員免許を持った教師を配置し、質を高めるということを説明された。義務教育学校で勤務するにあたり、小中学校の教員免許が必要というだけで、教師の質とは別問題であると思う。 	
町の考え	<p>ご意見のように義務教育学校では、教員は原則小・中免許の併有が必要ですが、当面は小学校免許で小学校課程、中学校免許で中学校課程を指導可能としつつ、免許の併有を促進していきます。小・中免許を併有する教員が必ずしも質が高いとはいえません。そこで、意見5-1 町の考えの後段でお答えさせていただいたように、児童生徒の9年間の発達を見据えて教育活動に取り組んでいくためには、積極的に他校種における指導技術の向上に努めるとともに、小・中相互の良さを学び合っていく必要があります。重要なのは、校内研究をはじめとした教職員研修です。指導・助言、情報提供といった外部からの刺激と、校内研究、相互の授業参観などによる教職員間の高め合いの双方が相まって、より良い取組が生まれていきます。そこで義務教育学校への制度移行前も、開校後も、研修機会の拡大と充実に努めてまいります。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 今現在の町の学校の教育の質が低く、対策をたてなければならないという様にも受け取ったが、そのところはどうか。学力テストの結果は全国平均よりは上(普通)の状態であり、中一ギャップに関しても、町の中学校では顕著にあらわれていないとの説明があった。学力向上や中一ギャップの解消が期待できるということで義務教育学校を作るというのは、理由にはなっていない。 	
町の考え	<p>学力テストは意見5-6、中一ギャップは意見5-5の町の考えでお答えさせていただいております。義務教育学校の設置を進める理由も含め、参照してください。</p>	

意見者	意見概要
8	<p>4 カリキュラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 義務教育学校の修業年限9年の中で、前半6年と後半3年の課程の区分は確保とあるが、それでは従来の小学校・中学校と変わらない。8年目終了時点で中学校の学習課程を終了し、最後の1年(もしくは夏休み以降)は受験対策としての授業と対策を進めるようなカリキュラムならば魅力もある。 地域の学習は小学校1・2年生の生活科や3・4年生の社会科で学ぶ。また授業の進め方によれば、総合的な学習の時間で学習することも可能。わざわざ、ふるさと科を作る理由がわからない。
町の考え	<p>カリキュラムは意見5-4 町の考えを参照してください。</p> <p>義務教育学校では、カリキュラム編成の特例として、「王寺町教育振興ビジョン」にありますように、郷土に対する誇りと愛着を、子どもの自尊感情やグローバル化する社会において国際人として活躍するための基盤とするために、王寺町の歴史や文化、自然、環境を生かした教育を進め、ふるさと王寺への誇りを育めるよう、小学校から中学校3年生までの独自教科として「ふるさと科」を設置する考えです。独自教科設定の意義は、「小・中学校段階の教職員の一体化や地域と学校との協働関係の核とする。地方創生の観点から、地域の教育の特色化により、地域の活性化を担う人材を育成したり、地域の魅力化を図ったりすることができる。地域の文化・地理・歴史・産業等の教育資源を総合的に学習することができる。」などが挙げられます。また、効果的な教科指導を行うためには、それぞれの教科等の系統性・連続性を踏まえるとともに、学校全体で発達段階を踏まえた一定の方針を持ち、発展的な指導を行うことが重要です。例えば、小学校3年生での町内事業所への施設見学、中学校1年生の職業人講話、2年生の職業体験学習などキャリア教育と組み合わせたカリキュラムを設定することや、発達段階を踏まえた内容の授業を行うことでより習熟が図れます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 小中教員によるTTとあるが、クラス数が多い学校で、十分にTTができない。中途半端になることが想像できる。
町の考え	<p>意見1-6 町の考えでお答えさせていただいたように、小学校課程の高学年に教科担任制の導入をすることで、学級担任の担当授業時数が減ることが考えられます。その場合に生じる空き時間については、学校の教育活動の一層の向上につながるよう活用することが重要です。例えば、教材研究や授業準備に充てることが考えられますが、それ以外にも、学級事務や出張教員の後補充といった時間の使い方に加え、①年間を通して空き時間に一定量の授業観察を行う ② 習熟に差が付きやすい科目のチームティーチング(TT)に入る ③小中一貫教育の推進に必要な打合わせに充てる など各学校の実情に応じて工夫を行うことが考えられます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 5年目からクラブ活動の導入というのが書かれているが、他の自治体では小学校体育連盟をつくり、小学校4年生からクラブ活動を導入し、他校との練習試合、一年に1回の大会を実施しているところもある。現状のままでも小学校に中学校並みのクラブ活動を取り入れることも可能である。
町の考え	<p>実態調査(平成26年5月文部科学省)によれば、小中一貫教育を行う学校の約4割の学校において、小学校高学年から中学校の部活動への参加が行われています。参加の仕方は学校としての方針や施設の形態によって様々ですが、例えば、①中学校の部活動の見学の機会を年間複数回設定する ②週数回、中学校の部活動に参加することを認める ③小学校高学年の児童が中学校の部活動に本格的に参加することを認める ④小学校において発達段階に即した独自の部活動を行い、中学校への円滑な接続を図る(例:タグラグビー、ミニバスケット等)などの取組が考えられます。その際、児童の興味・関心に応える活動を全てそろえるのは困難な場合もあることから、①から④の方法を組み合わせることも考えられます。なお、このような取組を行うための小学校教員の関わり方としては、部活動見学の引率者となる場合や、顧問や副顧問として指導に当たるケースなどが考えられます。こうした取組の意義はおおむね次のように整理できます。①中学校1年生における大きな変化(例:先輩と後輩という新たな人間関係、放課後や休日における活動)を緩和する効果が期待できる ②高い社会性育成機能が見込める部活動の対象学年を増やすことにより、たくましい子ども達の育成に資することができる ③興味・関心の多様化や個性の伸長への対応をより早い段階から充実させることができる ④思春期の早期化への対応として、学級担任以外の多様な教職員が子供に関わる取組ができる ⑤適切な指導の下に早期から導入することによって、運動能力や競技能力、演奏能力等の一層の向上が見込める ⑥異学年での活動となることから、適切な指導の下に、下級生が上級生のやり方を学び、憧れの気持ちを持ったり、上級生のリーダー性を高めたり、下級生の手本になろうとする態度を養ったりする効果が期待できる、以上のことから、小学校単独でクラブ活動を導入するよりも小中一貫で実施する方がより異学年交流などメリットは大きいと考えております。</p>

○「王寺町義務教育学校設置に向けた基本方針」策定に向けたパブリックコメント 意見概要 と 町の考え

意見者	意見概要
8	<p>義務教育学校では、小学校6年生で卒業式を行い、中学生になるという体験ができなくなる。小学校6年生では、最高学年であるという自覚とともに、様々な学校行事においても下の学年の子ども達のお手本になったり引っ張っていったりと、精神的な発達に欠かせない体験をする。卒業式で、人生の一つの区切りを迎え、4月からは別の場所にある中学校に通うという体験ができないのは精神的な発達が望めない。</p> <p>実態調査(平成26年5月文部科学省)の結果によれば、4-3-2や5-4など柔軟な学年段階の区切りを設定し、小学校段階と中学校段階の間に意図的に移行期を設けている学校の4割弱が各段階の節目を活用して、児童生徒に発達の自覚を促すための儀式的行事を行っています。具体的には、地域の実情に応じて、①いわゆる「2分の1成人式」…成人の半分である10歳を迎える小学校4年生段階において、保護者の臨席の下、児童に将来の夢や目標を発表させる ②いわゆる「立志式」…元服にちなんで数え年の15歳を祝い、保護者の臨席の下、生徒に将来に向けた決意を発表させるとともに、大人になる自覚を促す ③区切りごとの修了面接…管理職や教務主任等が面接官になり、当該区切りにおける目標や心がけていること、学んだことなどを質問し、自覚的な取組を促すとともに、社会人としてのマナーを身に付けさせる ④旅行・集団宿泊的行事と絡めて、①～③のような取組を行うなど様々な工夫が考えられます。各学校では創意工夫を生かして様々な取組が行われていますが、おおむね、何らかの形でこれまでの学びを振り返り、将来の目標を設定したり、次の区切りでの活動への意欲を高めたりするといったねらいが設定されていることが多いようです。このような取組は、児童生徒一人一人の社会的な自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア教育の視点からも意義が大きいと考えられます。</p> <p>また、ご意見の別の場所に通うという体験による精神的な発達については、例えば制服やかばんといった服装面での取組、校舎のフロアの区切り(棟を変えるなど)の工夫など他の様々な取組との相乗効果を生み出すことも考えられます。</p> <p>莫大な資金を投入して義務教育学校を作るという説明だったが、その資金を今現在ある学校の改築や建て替えて、学習環境を整える方が良い。</p> <p>町の考え 意見1-11 町の考えの前段を参照してください。</p> <p>具体的なカリキュラムや学校運営の説明がなく、学校ができてからカリキュラムを作れば良いということなのか、このようなあいまいな状態で義務教育学校設立に理解を寄せられない。</p> <p>最近になり作られ始めた義務教育学校の詳しい検証がなされていない中で、義務教育学校を作るのは、机上の空論で残念な結果になると思う。</p> <p>町の考え カリキュラムについては、意見5-4の町の考えでお答えしたとおり、平成29年度から各小中学校、教育委員会事務局によるプロジェクトチームを結成し、義務教育学校の円滑なスタートが図られるよう、先進校の取り組みなど情報収集を行い、調査・研究を行ってまいります。</p> <p>義務教育学校の検証は、意見1-11の町の考えの後段でお答えさせていただいたように、小中一貫教育については、これまで全国の自治体や学校現場での取組が10数年以上にわたって蓄積され、顕著な成果が明らかになってきました。</p>
9	<p>義務教育学校という形態が制度化されたが各市町村でその形態が合うのか否かが大切であり王寺町で実施するメリットが現段階ではあまり感じられない。</p> <p>・ メリットが感じられない理由</p> <p>1 小学校の数は多い方が地域密着化ができ避難所までの距離が短くて済む。せっかく2つ小学校があるのにひとつにするには時期尚早。導入するなら約10年後の生徒数ピークが過ぎてからに予定をするべきである。</p> <p>町の考え 小学校の跡地の利用については、意見1-8,9 町の考えの前段を参照してください。</p> <p>ピーク時が過ぎるまで待てないのは、意見1-11 町の考えの前段を参照してください。</p> <p>2 交通量の多い国道が2つ通る付近を小学校低学年が通学するのは大変危険。王寺中学校の場所が小学生の通学に向いていないと感じる。葛下川遊歩道を利用するにしても転落防止の柵や街灯、幅員の整備を行う必要がある。</p> <p>町の考え 意見1-4、5の町の考えでお答えさせていただいたように、パブリックコメント、スクールミーティング等での意見を受けて、「基本方針」の今後、取り組みを進める上での留意すべき事項として、通学路の安全確保を図ってまいります。(意見1-4、5 町の考え参照)</p>

○「王寺町義務教育学校設置に向けた基本方針」策定に向けたパブリックコメント 意見概要 と 町の考え

意見者	意見概要
9	<p>3 スクールミーティングなどの様子から行政側のデメリットに対する認識や危機管理が甘いと感じたため、実施後に問題点が出た時の対処が本当に早急にされるのか不安が大きく、現状のような流れで進めていくのは賛成できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育学校に賛成・反対ということではなく、実際どのようになるのか具体的なことが示されていないため、不安が大きく賛成も反対もできないのが現状。 ・ 義務教育学校を導入する場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の整備の仕方・規模・運動場の形態、生徒一人当たりの先生の人数、通学路の整備案、学童保育の場所、今後の避難所、現在の北小と王小の活用案、授業カリキュラムなど上記のようなことが住民や保護者の関心であるためそれが提示されない状況では賛同を得るということは無理である。 ・ 議会で予算案を組んでから具体的な案を作っていくと説明があったが順序が逆。具体的な説明とともに住民に理解を求め、提示された案で住民・保護者の反対意見が多ければ、そこでまた再検討するという段階を踏んだ進め方にしていただきたい。今のよう形ですまず賛同を求め、それから具体案を後出して提示というのは危険が多すぎる。北小・王小の活用案含め安心できる具体案であれば賛同したいと思う。
町の考え	<p>○パブリックコメント、スクールミーティング等での意見を受けて、今後、取り組みを進める上での留意すべき事項として、基本方針に追記しましたように、</p> <p>【広報広聴】</p> <p>○調査、計画を進める段階ごとに次の内容等について、地域や保護者の方に対して、十分な説明や意見交換を通して、理解を得ながら進めていきます。</p> <p>【魅力あるカリキュラムの導入等】</p> <p>○9年一貫の教育目標や系統性を整理したカリキュラムの編成、軸となる独自教科、教職員の意識醸成などが必要なことから、平成29年度から、各小中学校、教育委員会事務局によるプロジェクトチームを結成し、円滑なスタートが図られるよう、先進校の取り組みなど情報収集を行い、調査・研究を進めていきます。</p> <p>【通学路の安全確保に関する対応】</p> <p>○通学路の安全点検を実施し、危険箇所を早期に確認し、通学路をお示するとともに、必要な安全施設の整備を行います。</p> <p>【児童生徒の共用・連携に配慮した施設】</p> <p>○教室、特別教室、運動場等については児童生徒の安全性・動線に配慮し、適切な配置・規模・設備になるよう、土地利用調査、施設配置などの計画を立て、プランを示しながら、内容を固めていきます。</p> <p>【廃校となる学校の跡地利用】</p> <p>○廃校施設等の利用については、例えば、コミュニティの場、社会体育施設や社会福祉施設への活用も含め、今後の行政需要や地域の実情を考慮して、あり方を検討していきます。</p> <p>以上のように、今後も、計画の進行とともに、順次、地域や保護者の皆様に説明、意見をお聴きする場を設け、ご理解を得ながら、進めてまいります。</p>